

令和3年産晩生種りんごの販売展望

令和3年産の晩生種りんご（サンふじ、王林など）の販売が順調に進んでいます。
3月号では、当JA産りんごの販売に尽力している市場代表者の、今後の販売見通しをご紹介します。



JA全農あおもり青果物研究会
果実部会長（東北・北海道）
仙台あおば青果(株) 果実1部
部長

堀江 隆行

令和3年産りんごは、春先の低温による凍霜害等の天候不順や異常気象などから、変形果・サビ果などの下位等級比率が高い作柄でした。

主力のサンふじも、大幅な数量減から前年の3割高で販売されています。長引くコロナ禍により、消費者の財布の紐も固く、売価を見て値頃感が合わず購買しない傾向があり、量販店での売場の縮小が見られます。宣伝会も実施出来ず、大変厳しい状況が続いていますが、今後の販売においては食味の良さをアピールし、販促物による店づくりの強化を図り、リピーターを増やすのが重要です。

今後、消費地の気温の上昇から、褐変や軟果等の品質低下が懸念されますので、改めて産地での品質管理の徹底や早期の計画出荷をお願いし、サンふじ終了まで有利販売に努めてまいります。

有袋ふじにおいては、産地の高齢化、作業員不足から年々生産量が減少しています。産地状況を踏まえ、また、今後の競合果実の動向から見ても、高値安定価格での販売になると思います。

最後に、令和4年産りんごがスムーズな生産・出荷・販売になるよう、祈っています。



JA全農あおもり果実研究会
会長（京浜）
東京新宿ベジフル(株) 執行役員

菅野 秀一

平素は、多大なる出荷を賜り誠に有り難うございます。

令和3年産の青果物全体を取り巻く環境は、決して楽観視出来ない年でした。天候においては、全国的に雪害・凍霜害・雹害・夏季の干ばつ等の影響から、総じてどの品種も着果不足、小玉傾向による数量減の現象が生じました。

りんごの販売環境としては、他の主産県も過去に例を見ない数量減の年となりました。12月の小売店の販売は、販売価格もサンふじ40玉で198円売りと非常に高い環境となりました。198円売り、小売店の売価も40玉158円、138円と売価の変更にされ、売り場面積の拡大に繋がりました。売価もありますが、それよりも重要なのは「食べて美味しい」というお言葉をたくさん頂きました。

生産地の皆様においては、「生産力維持」への行動をして頂きたいと思っております。

国産果実は、全国的に年々生産量が減少の一途を辿りつつあり、りんごは、小売店の売り場の「花形」です。その店の売り上げを左右すると言っても過言ではありません。3月以降の販売も安定的な販売が見込まれます。競合品目の3月以降の入荷は、苺、中晩柑類、瓜類、輸入果実、特にオレンジは干ばつの影響とコンテナ船の遅延等から、供給が不安定になる見通しです。

結びに、生産地の皆様には「高品質で食味良好」のりんごを生産して頂き、我々市場としては、産地の皆様が丹精込めて作られた「りんご」を必ず有利販売に繋げることをお約束して展望とさせていただきます。



東海地区JA全農あおもり
研究会 会長
静岡VF(株) 営業第二部部長

梅木 賀之

日頃の出荷では大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。

令和3年産りんごにおきましては、各産地で春先の凍霜害の影響により、生産量は少なくなっていました。貴組合に於かれましては、多かれ少なかれ影響を受けたかと思っております。

今期の販売については、早生種から中生種、そしてサンふじと品種間の販売のレールがスムーズに行われました。

また、生産量が少ないという事もあり、平年より高い単価での販売が続いています。これも何より高品質並びに食味が大変良いという事が消費者に受け入れられ、例年より多少単価が高くても安定した販売が出来ていると考えられます。

今後のサンふじ、そして有袋ふじの販売においても、有利販売に向けて以上の販売努力をしていく所存であります。産地に於かれましては、今まで通り高品質かつ選果の徹底を図っていただき、継続的な出荷をお願いいたします。

生産面に於かれましては、気象条件等でご苦労も多いかと思いますが、毎年、津軽みらいの美味しいりんごを消費地に届けてもらえる様、お願いいたします。

また、我々市場も産地と消費者の繋ぎ役としての責任を果たしてまいりますので、今後とも宜しくお願いいたします。